

# Annual report 2021

2021 年度 事業報告書

2022年4月22日

## 平穏な生活や感性が大切にされる世界を目指して

理事長 魚住英昭

2022年度盛岡YMCA会員総会を迎えるに当たって、理事長として一言ご挨拶を申し上げます。

2021年度は、私たちにとって衝撃の年となりました。新型コロナ禍に加え、2月下旬、突然、ロシアによるウクライナ侵攻が勃発したからです。ロシアの侵攻を機とした両国の戦闘は、現在も激しさを増し、両国の兵士のみならず、子どもを含む膨大な数の民衆が命を奪われています。今回の侵攻は、ロシアの国威発揚、領土拡張志向に基づく一方的な侵略であり、歴史を刻む時計が逆に回って20世紀前半に戻ったような錯覚を覚えます。

ところで、世界の歴史を振り返ると、多くの場面で、権力を志向する集団が大義や壮大な理想を掲げ、自らの基準に合わない集団を排除・粛清し、異論を封じながら政治や経済、軍事の実権を握るプロセスが繰り返されてきたことが窺われます。たとえ、初めは崇高な理念やヒューマニズムが契機となっていたとしても、権力獲得や維持のプロセスにおいて自己絶対化や純化、排除の論理が働き、硬直的な原理主義に陥ってしまうことが少なくなかったように思います。

古い話になって恐縮ですが、私の青年時代、多くの学生が読んでいた小説に高橋和巳という作家の『邪宗門』という作品があります。世直しを掲げる新興宗教がやがて過激化し破滅に至る過程を描いたものです。1966年に出版された作品ですが、6年後に生じた連合赤軍のあさま山荘事件、さらには、1980年代から90年代にかけて世間を震撼させたオウム真理教の事件を予言するかのようなストーリーでした。連合赤軍事件においては、メンバーの恋愛や市民的な幸福の享受が反革命的であるとして、次々に粛清が行われたことが最終局面で発覚しました。これと同様の現象が、中国の文化大革命においても発現し、多くの芸術や文化が西欧的近代の小市民的欲求に基づくものとして紅衛兵らの糾弾の対象となりました。

このような例にみられるように、しばしば大義の犠牲になるのは、民衆や市民の日常生活やささやかな幸福への希求です。大義を掲げる集団は、現実から乖離した無責任なユートピアを民衆に押し付け、人間としての自然な感性の発露や素朴な欲求を抑圧しようとし、自らの追求する理想や大義のために指導者への絶対的な忠誠を求め、命すら差し出すよう強いることになるのです。今回のロシアによるウクライナ侵攻もそのような論理に導かれていることは明らかです。戦火を逃れて国外に避難せざるを得なかった多数のウクライナ人、避難の経

路すら断たれ、廢墟と化した瓦礫の下で怯える子どもや女性、老人たちの悲しみを思うと言葉もありません。

私たち YMCA にかかわるものもまた、時として、仲間と共に理想や夢を語り合うことがあります。しかし、そこで語られる理想や夢は、決して、人間らしい感情や日常生活の否定の上に成り立つ空疎な理想ではありません。また、理想を実現する手段としての権力を志向したり、他者が大切にする価値を排除したりすることもあります。ひとりひとりが性別や地位などの属性によることなく、あるがままに固有の価値を認められること、そして、かけがえのない存在として人権を尊重されること、互いに共感を示しつつ共に生きること、そのような世界こそが私たちが願ってやまないものです。

私たちは、常に、日常の活動の中でかかわりを持つひとりひとりの心や生活を大切にし、寄り添っていきたくと願います。迂遠なようでも、そのように小さき者、弱き者に思いを寄せ行動することこそが、現在、世界で跋扈する権威主義や原理主義に対抗する土壌を作ることになるものと考えています。

盛岡 YMCA は、2022 年度も多く子どもや若者、中高年に居場所や自己肯定感、ささやかな幸福感を提供できる場として、歩みを進めてまいりたいと思います。引き続き、皆様のご協力とご支援をお願いします。

# 2021 年度総括

## ■ はじめに

### 1 新型コロナウイルス感染拡大の影響

新型コロナウイルスの感染者は 2021 年度もとどまるどころか、さらに増加していきました。このため、前年度に引き続き、盛岡 YMCA の当初予定していた様々な活動が大きく制限される 1 年となりました。

#### 1) 事業活動の大幅な自粛を行いました。

「岩手県独自の緊急時代宣言」を受けて感染拡大防止の観点に立ち、放課後児童クラブ以外のサッカー、水泳、体育、野外活動、生涯学習の事業を自粛しました。その期間は、4 月、8 月、9 月、1 月、2 月、3 月と約半年間に及び、このことは 2021 年度の収入に大きな影響を及ぼしました。

#### 2) 学生ボランティア活動の機会が大きく減少しました。

岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学から 100 名を超える学生ボランティアが集まる盛岡 YMCA のリーダー会は、それぞれの大学においてサークル登録をしています。全国的に増加している若者による感染拡大を防ぐため、県内の大学は「岩手県独自の緊急事態宣言」を受けて期間を定めて課外でのサークル活動の禁止を決定しました。

これに伴いその期間中、盛岡 YMCA のボランティア・リーダーは、YMCA の活動に参加することができなくなりました。感染拡大を防止する上で当然の判断ですが、一方で従来なら皆が集まり知恵を出し合いながらプログラムの内容を協議したり、プログラムに参加する子どもたちと直に接することによって得られるかけがえのない気づきや経験が大きく制限される 1 年となりました。

### 2 2025 年度完成の中期計画に向けての 1 年目の取り組み

様々な活動が制限される中で、2021 年度を盛岡 YMCA 中期計画で掲げたそれぞれの目標の達成に向けての土台作りの年、基礎体力の強化の時期ととらえ、コロナ禍だからできることに一つひとつ取り組んで行きました。

### 1) タスクチームによる取り組みが機能し始めました。

盛岡 YMCA の行うチャイルドケア事業、ウェルネス事業など事業に関わる事業タスク、ピンクシャツデーや、国際協力募金など地域、国際活動に関わる運動タスク、新規事業、全体広報などの戦略タスクと3つの領域に分けて20を超えるタスクチームを組織し、フルタイムの職員は必ずそのどれかに所属しています。2021年度はタスクチームのメンバーが協議を重ね、事業所間の垣根を越えて横につながりながら、計画の達成に取り組みました。このことにより、チームとして課題を共有でき、一つひとつの取り組みが向上しました。一方で、ミーティングの回数が増え、職員の負担になっていたのも事実です。今後、タスクの数を整理し、効率的に進めていく仕組みを作る必要が課題として残されました。

### 2) 伴走プログラムが成果を出し始めました。

伴走プログラムタスクチームが中心となって実施方法を検討し、放課後児童クラブ、水泳教室、サッカースクール、体育教室、月例野外活動（ちきゅうとあそぼう）において参加する子どもたちのエピソードの記録を年間を通じて行いました。記録することによって、ふりかえりが行われ、それぞれのプログラムで開催されるミーティングも内容の濃いものになっていきました。退会者が例年に比べ、減少するなど、確実に効果が上がっています。

今後は、専門の先生をお招きしての事例研究など、エピソードの記録をより実りあるものにしていく必要があります。

### 3) 認定NPO法人として認証されました。

2021年8月20日付で、盛岡YMCAは岩手県から認定NPO法人として認定されました。認定NPO法人とは、一般のNPO法人に比べ、下記の要件を満たしたNPOが認定されるものです。

1. [パブリック・サポート・テスト\(PST\)](#)に適合すること(特例認定は除きます。)
2. 事業活動において、共益的な活動の占める割合が、50%未満であること
3. 運営組織及び経理が適切であること
4. 事業活動の内容が適切であること
5. 情報公開を適切に行っていること
6. 事業報告書等を所轄庁に提出していること
7. 法令違反、不正の行為、公益に反する事実がないこと
8. 設立の日から1年を超える期間が経過していること

このことにより、盛岡YMCAへの寄付者は、税制上の優遇措置が受けることが

できるようになりました。また、認定 NPO 法人になることにより社会的責任がより一層増すことになりました。

## ■ 2021 年度盛岡 YMCA 事業計画に対する評価

盛岡 YMCA は中期計画で定めた 3 つの重点目標「Ⅰ 地域の未来を支える子ども、若者を育成支援する」「Ⅱ 地域の諸団体と連携し、地域課題の解決に取り組む」「Ⅲ 盛岡 YMCA の活動を継続させ、より充実させていくためにその土台となる組織の強化を図る」の達成に向けて事業計画を定め、具体的なアクションプランを実行してきました。

### Ⅰ 地域の未来を支える子ども、若者を育成支援します。

★子どもたちに安全で安心して過ごせる放課後の時間と場所を提供します。

1 盛岡 YMCA が現在行っている放課後児童クラブ「ぷらいむ・たいむ」の内容を充実させ、ノウハウの蓄積を図っていきます。

#### 1) 感染予防について

感染防止ガイドラインに従って、感染の予防と、感染拡大の防止に努めることができました。県内でも爆発的に感染が拡大した年明け以降、YMCA 関係者の中にも濃厚接触者に特定されたり、PCR 検査で陽性と診断されるケースもありましたが、その都度、監督官庁、保健所の指示に従い、適切な対応をとることでそれ以上の拡大を防ぐことができました。

#### 2) ※1 伴走プログラムについて

伴走プログラムの導入が効果を表しています。エピソード記録の記入により、スタッフ間で情報の共有が行われ、保護者に児童クラブでの様子を伝える機会が増加しました。こうした効果は数字として表れ、伴走プログラム導入前の 2019 年の退会者は 40 名であったのに対して、2021 年度退会者は、21 名と 50% 近く減少しました。

#### 3) ※2 キャラクターディベロップメント運動、※3 メンバーシップバイデザインについて

当初予定していたキャラクターディベロップメント運動、メンバーシップバイデザインについては、具体的な行動を起こすことができませんでした。これらについては、今後スタッフ間でもう一度学び直しを行います。

キャラクターディベロップメント運動は、伴走プログラムを推進する中で無理のない形で実行に移していける計画を作成していきます。また、メンバーシップバイデザインについてはピンクシャツデー、国際協力募金、チャリティーランなど盛岡 YMCA が行う地域・国際活動を通して会員の皆さんに理解と協力を丹念に呼びかけていきます。

※1 YMCA 伴走サポートは、ひとりの子ども、ひとつの家庭に寄り添いながら、一貫して子育てと子育てを応援する全国の YMCA で導入を進めているオリジナルプログラムです。その子に合った成長を長い目で見守りながら、日々の体験で得られたエピソードを記録し、保護者やご家庭の方への個別面談を通じて定期的にフィードバックします。

※2 全国の YMCA において展開しているキャンペーン。「キャラクター」とは「人格」、「ディベロップメント」は「向上」を意味します。人格形成に必要とされる価値は様々ですが、その中でも YMCA は、「CARING (思いやり)」「HONESTY (誠実さ)」「RESPONSIBILITY (責任感)」「RESPECT (尊敬心)」という 4 つの価値を掲げ、YMCA のあらゆる活動を通してこれら 4 つの価値を伝えて行きます。YMCA に関わる全ての人、子どもたちにとって、また全ての人にとっての良きモデルとなり、人格の中にこの 4 つの価値が生涯にわたって大切な価値として育まれていくこと、そして一人ひとりが自分を大切に思う気持ち、それと同時に自分以外の人、物、自然などに関心を持って自分のことのように全てを大切にできる人格を育てることを目指します。

### ※3 メンバーシップバイデザイン

YMCA のプログラム参加者が、一時的なサービスの利用者として終わるのではなく、YMCA の提供するサービスに満足することから始まり、YMCA が実施する様々な運動に寄附者として、ボランティアとして、そして YMCA の担い手として関わり、YMCA の使命と価値を体験できるようになること。

## **2 盛岡市並びに近隣市町村が計画する放課後児童クラブ、児童館等新たな地域における民間委託、指定管理に応募していきます。**

### **1) 中央センターの 2 単位運営について**

放課後児童クラブへの待機児童が増加している盛岡市の中心地区において、その解決に向けて盛岡市と協議を重ねた結果、ふらいむ・たいむ中央校が 2 単位として認められ、2022 年度から定員を増加して学童を受け入れることが可能になりました。

### **2) 向中野地区児童館の指定管理の応募について**

向中野地区において 2022 年度中に建設が決定した児童館の指定管理の応募については、同地区に「ふらいむ・たいむ向中野校、盛南校」と盛岡 YMCA が運営する放課後児童クラブが 2 校あることや指定管理料、運営に関わるマンパワー等総合的に勘案した結果、現段階の盛岡 YMCA の実力に対して指定管理の運営はリスクと負担が大きいと判断したため、応募を見送る判断をしました。

### **3) その他**

矢巾地区の指定管理の応募、前潟センターにおいての放課後等デイサービ

ス開設の可能性については、引き続き調査を継続し検討を行っていきます。

### **3 放課後の健全育成を行う他団体と連携を図り、地域の子どもたちの成長を支援します。**

- ・盛岡 YMCA ニュース※4「ピンクシャツデー特集号」を地域の放課後児童クラブ、児童センター等に届けました。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の予防について、地域の放課後児童クラブと連絡を取り合い、情報を交換しながら対応を進めていくことができました。

※4 毎年2月の最終水曜日をピンクのシャツを着たり、ピンク色のものを身に着けることで「いじめ反対」の意思表示をする日とする運動。カナダで始まり現在では約180の国と地域に広がる世界的キャンペーンの一つ。全国のYMCAがこの運動に取り組んでいる。

### **★ 子どもたちの調和のとれた成長を促すウエルネスを推進します。**

#### **4 サッカー、水泳、体育教室の内容を充実させ、プログラムを通して、体を動かすことの喜びや、工夫して上達することによる思考能力、仲間とともにスポーツをすることによる他者への思いやりの精神を養います。また、子どもたち自身やその家族が生涯にわたってスポーツを楽しめるプログラムの開発に取り組めます。**

- ・伴走プログラムについては、いずれのプログラムも導入が進んでおり、それぞれのミーティングの場で子どもたちの様子を共有できるようになり、プログラム内容の充実につながっていきました。
- ・水泳教室では、年3回、学期ごとに担当者が電話連絡を行い、エピソード記録を元に子どもの教室での様子を保護者に伝えることができました。また、学校や家での様子、子どもや保護者がYMCAに何を期待しているかを教えてもらう良い機会にもなりました。
- ・水泳教室では、定期的なリーダートレーニングや外部講師を招いてのスタッフトレーニングを行うことができました。
- ・体育教室では、ミーティングにおいての振り返りを活かし、新たに備品を購入して参加している子どもたちに適した練習メニューを考案するなど内容をより充実したものにすることができました。
- ・サッカースクールは、担当スタッフが事前に練習メニューを連絡することにより、リーダー一人ひとりが練習メニューを理解し、自信をもってプログラムに取り組めるようになりました。また、用具の準備、後片付け、挨拶などキャラクター・ディベロップメント運動をけん引する役割を果たすことができました。
- ・2022年度は、サッカー、水泳、体育のそれぞれのプログラムの工夫、課題、



成果をウェルネス部門で相互に共有しながら、質の高いプログラムの提供を目指していきます。

**5 野外活動の内容を充実させます。野外活動を通して、自然を大切に思う心、グループ活動の中で、他者と自分の違いに気づきそれを克服する力、共同生活を経験することで、生活する上で大切な良い習慣を養います。**

・新型コロナウイルスの影響で活動が大きく制限された 1 年でした。そのような中でも、予防対策をしっかりと講じ、夏 2 本、冬 1 本のキャンプを開催することができました。

・活動の回数が制限されたものの、予定されていたリーダートレーニングを確実に実施することができました。

・月例の野外活動（ちきゅうとあそぼう）プログラムでは、振り返りを丁寧に行い、ボランティア・リーダーの協力のもと活動中のそれぞれの子どもたちの様子を記録することができました。このことはリーダー自身のふりかえりにもつながっていきました。

コロナ禍において、野外活動へのニーズは高まっています。2022 年度も PDCA サイクルをしっかりと回しながら質の高いプログラムを提供することを通して参加する子どもたちや活動に関わる若い学生リーダーの成長を促していきます。

**6 地域のスポーツ活動、野外活動や環境問題に取り組む他団体と連携し、地域の子どもの成長を支援します。**

・2021 年度は具体的なアクションを行うことができませんでした。今後、地域の大学等と連携し、専門的な観点から指導を頂いたり、協働したプログラム開発など、2022 年度以降の課題になります。

**7 子どもたちに対して自分が自分でいいんだという「自己肯定感」を与え、子どもたちの心の幸せを高めていきます。**

・計画としては、曖昧な表現のため、担当者にとっては具体的なアクションを設定しづらかった面があるようでした。むしろ、働くスタッフやリーダーの「自己肯定感」をいかに高めることを優先させ、研修や働き方の改革など、具体的な取り組みを 2022 年度は行っていきます。また、定着してきた伴走プログラムをより充実したものとし、事例研究や、ミーティング等を通して、子どもたちの「自己肯定感」いかに高めるかを話し合う機会を設けていきます。

★ 「心をひらき、分かち合う前向きでまわりを惹きつける魅力を持つ」若者を育てます。

**8 地域の諸団体と連携し、若者たちへ自らの成長を促せるボランティアの場を提供します。**

・国際有機農業運動連盟が提唱する有機認証制度二つのうちの一つである PGS（参加型有機保証制度）を日本で唯一公式認定された団体である「オーガニック雫石」の協力を得て、ユースリーダーが有機栽培の秘伝豆の定植、収穫の体験をしました。

・ウルシの木の育成による地域の産業、振興と国産漆不足の解決、及び人材の育成を目的として活動を行っている「次世代漆協会」の協力を得て、ユースリーダーが漆の苗の植樹体験をしました。

・もりおかワイズメンズクラブと共にユースリーダーが雫石町で地域おこしの一環として開催される「軽トラ市」に出店し富士宮焼きそばの販売を行いました。販売による収益の一部は盛岡 YMCA ユースリーダーの育成に充てられます。

**9 リーダートレーニングの充実を図るとともに、地域社会の課題や文化、歴史について学ぶ場を提供します。**

・ZOOM などを活用し、オンラインでの研修を行うことで、予定通りのリーダートレーニングを開催することができました。

・「救急法」「人間関係トレーニング」など実際に対面で行う必要のある研修は、換気、消毒など徹底し、人数制限を設け、開催を2回に分けるなどして、実施することができました。

・岩手弁護士会「人権擁護委員会」の皆さんを講師に2月2日、盛岡 YMCA のリーダーを対象に「盛岡 YMCA 人権セミナー」が開催されました。今後、盛岡 YMCA リーダー会は、有志による「人権プロジェクトチーム」を結成し、2022年度は、人権擁護委員会の皆さんと協働し、「岩手人権カルタ」の制作を行うことで人権啓発活動を行っていきます。また、このプロジェクトについては、3月6日に開催された「Y' S Action!22」において選考されワイズメンズクラブからの助成を受けることが決定しました。

**10 YMCA のグローバルなネットワークを活かし、世界の YMCA とつながりを深める機会を提供します。**

・12月26日（日）岩手県在住の外国人の皆さんのボランティアグループ「岩手サークルオブフレンズ」のチャリティコンサートがクロステラスで開催さ

れました。盛岡 YMCA のルイーゼリーダーも参加。クリスマスソングとオリジナルの楽曲を披露しました。益金の 16,914 円は、日本 YMCA 同盟を通して 12 月 16 日に発生したフィリピン台風 22 号で被災された方々への支援に送られました。

## Ⅱ 地域の諸団体と連携し、地域課題の解決に取り組みます。

### 1 いじめや偏見をなくすピンクシャツデーの運動を広めていきます。

- ・年に 1 回のイベントで終わらせることのないよう、タスクチームで話し合い、子ども達自身が解決に向けて考えることができるワークショップを盛岡 YMCA の運営する放課後児童クラブ各校で開催することができました。
- ・賛同する企業が増加しました。
- ・「ぶらいむ・たいむ前潟校」で開催されたワークショップを岩手日報、めんこいテレビが取材し、岩手県内にこのキャンペーンを紹介することができました。
- ・盛岡 YMCA ニュース「ピンクシャツデー特集号」を増刷し、盛岡市内の幼稚園、小学校、高校、大学、放課後児童クラブ、企業など合計で 1,000 部配布することができました。

### 2 インターナショナル・チャリティーランを開催し、その参加者、協力者の拡大に努め、障がいのある人もない人も全ての人たちが幸せに生きていくための理解と共感を地域に広げます。

・新型コロナウイルスの感染拡大のため、今年度も開催することはできませんでした。そのような中で、過去の益金を利用して「認定 NPO 法人 accomon」と協働して発達に課題を抱える子どもたちのためのデイキャンプの開催の準備を開始しました。度重なる岩手県独自の緊急事態宣言を受けて、何度も開催が延期されましたが、そのような中で中心となる学生ボランティアリーダーたちは、ZOOM を使ったオンラインでのレクレーション大会を開発し、2 度の開催をすることができました。

全国の YMCA ではオンラインを駆使して様々が形で開催する YMCA が出てきているため、2022 年度は開催方法を工夫して開催できるように準備を進めていきます。

### 3 地域に生きるすべての子どもたちが将来に希望を持つことができるよう、「ポジティブネット子ども募金」運動を推進し、子どもたちの貧困対策に地域

**の諸団体と連携して取り組みます。**

・企業、生産者、市民から提供された食料を生活困窮者や児童・障がい者施設などに無償で提供する活動を行っている「NPO 法人フードバンク岩手」の活動を支援するため、盛岡 YMCA のプログラム会員のご家庭に食料の提供を年 3 回にわたって呼びかけたところ、合計 100.95 キログラムの食料を集め、届けることができました。

**4 YMCA の持つグローバルなネットワークを活かし、市民の異文化理解、多様性の向上に貢献します。**

・具体的な活動をすることはできませんでした。一方、コロナ禍の約 2 年間で、世界の YMCA はオンラインを駆使し、積極的につながるようになりました。世界の YMCA のニュースが「ワールド YMCA」として毎月発信され、最新の情報を簡単に得ることができます。また、翻訳ソフトも飛躍的に向上してきているため、今後世界各地の YMCA と盛岡 YMCA が直接につながっていくことが期待されます。

**Ⅲ盛岡 YMCA の活動を継続させ、より充実させていくために、その土台となる組織の強化を図る。**

**1 YMCA 運動の担い手とし盛岡 YMCA に関わる一人ひとりに対してその力が十分に発揮できるように YMCA の使命、YMCA が目指すポジティブネットのある地域社会に対する理解を深め、共有する機会を提供します。**

・新型コロナウイルスの感染拡大のため開催することのできなかつた「盛岡 YMCA 大会」を 3 月 20 日（日）オンラインで 2 年ぶりに開催することができました。職員、役員、リーダー、リーダーOB、OG など約 60 名の参加がありました。基調講演では日本 YMCA 同盟田口努総主事から日本 YMCA 中期計画に掲げられている「positive well-being」について講話をいただき、その後 12 の分団に分かれてそれぞれの感想や意見を共有しました。

・2022 年度は、盛岡 YMCA の職員、役員、ボランティアを対象と、YMCA 理解を目的としたリーフレットを「盛岡 YMCA スタディシリーズ」として発行する予定です。

**2 働く職員が生き生きと安心して YMCA 運動を推進していけるように、研修の充実、仕事の合理化、諸制度の整備を図ります。**

**1) 研修会への職員の派遣並びに内部研修会の開催**

- ・9月30日から11月27日までの59日間、日本YMCA同盟国際センター東山荘及び在日本韓国YMCAで開催された「日本YMCAスタッフ研修ステップⅡ研修」に向中野センター所長の尾形裕一郎さんが研究生として参加しました。
- ・この他、オンラインで開催された「第16回東日本地区YMCAスタッフ研修会」、また県内のNPOが主催した「ファシリテーション講座」「オンライン上でのアイスブレイキング活用術」に職員が参加しました。
- ・職員に対する研修は外部のものも含め、感染予防、安全管理、発達障がいに対する理解など、主に放課後児童クラブの職員を対象に計16回の研修会を開催し、延べ87名の参加者がありました。

## 2) コロナ禍における職員の疲弊

通常の業務に加えて盛岡YMCAが行う様々な運動やイベントのタスクに職員が関わることによってYMCA理解が深まり、資質の向上が図られる一方で職員の負担も年々増加しています。コロナの感染防止に費やされる日常的なストレスもあり、職員には疲労が蓄積されています。こうした中、業務の断捨離、事務を整理して計画的に進めていく習慣作りや、会議を効率的に進める工夫、日常的に良好なコミュニケーションを図っていくことは、活力ある組織を作っていくうえで最重要な課題になります。

## 3) 5S運動の推進

・2020年度からスタートした※5「5S運動」は盛岡YMCAのそれぞれの事業所において大分意識的に行われるようになってきました。身の回りの整理整頓が仕事の進め方、物事のとらえ方、考え方の整理整頓につながっていくように、今後もタスクチームを中心に仕事の基礎である5S運動を進めていきます。

## 4) 諸規定の整備と会則、定款の検討

退職金制度、諸規定の整備や会則、定款の見直しは2021年度内に完成することはできませんでした。これらは、2022年度の最優先課題として、それぞれの委員会が中心となり取り組んでいきます。

※5 5Sとは、以下の5つの活動の頭文字をとった言葉で、職場環境を維持、改善する上で用いられるスローガンです。・整理 (Seiri) ・整頓 (Seiton) ・清掃 (Seisou) ・清潔 (Seiketsu) ・しつけ (Shitsuke)

**3 YMCA運動の理解者、協力者（寄付者、維持会員）の拡大に努めるとともに、YMCAを理解し、組織をささえマネジメント関わるボードメンバーの開拓を図ります。**

当初、予定していた「募金委員会の設置」「もりおかワイズメンズ会員増強にむけての協力」については具体的なアクションを行うことができませんでした。今後は、「維持会費」「一般寄付」「国際協力募金」「リーダー育成募金」「中高生支援募金」など複数ある募金について整理し、より分かりやすい形にして

いきます。また、経済的な理由で盛岡 YMCA のプログラムに参加できない子どもたちを支援する仕組みづくりをしていきます。

#### **4 職員と共に YMCA 運動を理解し、YMCA の行うプログラムの最前線に立つ学生ボランティア、市民ボランティアの養成に努めます。**

学生ボランティアに対するリーダートレーニングは当初予定していた計画をほぼ実施することができました。2022 年度は専門性の高い外部講師を招き、職員を含めて学びを深める研修会を開催していきます。また、「盛岡 YMCA ハンドブック」を作成し YMCA に関わる一人ひとりの YMCA 理解を深めていきます。

#### **5 10 年後、さらに進む地域の少子高齢化を想定した新規事業の研究、開発に取り組みます。**

2021 年度は他団体との交流、協働が増えた 1 年でした。今後もこうした交流を通して岩手の自然を活かした“食”“農”及び“環境”に関するプログラムの調査、研究に取り組んでいきます。

## チャイルドケア事業全般



### ○前年度できなかったことの実施

2020年度、計画に従い実施していたが、継続できなかったことや、実施自体が出来なかったことがあった。2021年度はそれらに対し、計画通りに継続して実施することを一つの大きな目標として活動した。実施したのは以下の通りである。

1. 保護者宛てのお便りを毎月作成すること。
2. YMCA ニュースを受入対象小学校、町内会に毎月配布すること。
3. 内部研修を年3回実施すること。
4. 防災訓練(水害、火災、地震)を年間で各1回ずつ実施すること。
5. 毎月3週目に休会者へ電話をすること。

以上である。今年度は計画通り実施するという目標は達成した。計画通り実施していくことに加え、内容の充実を図っていくことが次のステップであると考えている。そのために今年度のそれぞれの内容について振り返り、分析を行う必要がある。

### ○伴走プログラム

4月～8月まで休止していた伴走プログ

ラムについて、職員からの聞き取りをもとに入力フォームを一新し、9月より再開した。10月からはパートタイム職員も含め実施している。職員からは以前の様な煩雑さがなくなり、入力しやすくなったとの声もあがった。しかし、各センターMTGで記録をもとに気になる子を挙げ、職員間で話し合うことは出来ているが、記録を活かしきれていない。しっかりと活かすことが出来れば、職員が子どもの良いところを積極的に見つけようとする意識が生まれることや、保護者に対して子どもの様子をより伝えられることに繋がっていくと考えられる。伴走プログラムを活かすための具体的な手段を決定し実施していく必要がある。

### ○退会者について

各児童クラブの2月末日をもつての退会者数の総数は21名であった。同時期では、2019年度は34名、2020年度は40名となっており、例年に比べ大幅に退会者が減少している。児童クラブの場合、他プログラムとちがい年度途中での入会者はほぼ見込めないため、退会者を如何に抑えられるかが重要である。一つずつ計画通りに継続して実施できていることや、現場の職員の子ども、保護者への関わりが大きな要因となっていると考える。

とはいえ、予算人数に達することができていないため、次年度は今年度以上に退会者数が減少していくよう、各児童クラブの内容の充実と質の向上を図ってきたい。

チャイルドケア事業部長：小川嘉文

## ぷらいむ・たいむ中央校

ぷらいむ・たいむ盛岡中央校では、チャイルドケア事業部の行動計画に則り、『①伴走プログラムをもとにした子どもへの支援』『②2020年度から継続した感染対策への取組』『③メンバー、保護者、学校、地域とのコミュニケーション』を大きなテーマとしました。

### ①伴走プログラムをもとにした子どもへの支援

【収穫】・フルタイム職員とパートタイム職員が、その日気になった子どもの様子を記録することにより、様々な側面を捉えることが出来た。

・記入された記録をもとに、センターMTGで子どもの様子や、関係性を掘り下げ、より細やかなケアの方針を共有することが出来た。

・その後の進捗状況についても、翌月のセンターMTG等で確認することが出来た。

【課題】・子ども一人ひとりに対して、どの程度記録されているか分析することが出来なかった。

・少ない人数で共有されたり、話されたことを別の職員へ共有することが出来ていなかった。

#### 【2022年度に向けて】

・子ども一人ひとりにしっかりと目を向けられるよう、記入されている内容だけでなく、頻度にも気を配っていく。  
・情報や話の内容など、より多くの職員で共有できるよう、コミュニケーションを密に図る。

### ②2020年度から継続した感染対策への取組

【収穫】・行うべき感染対策が明文化されており、全職員共有のもと行うことが出来た。

・感染症対策備品の購入を行い、感染症のリスク軽減に努めた。

【課題】・子どもたちがいる時間帯に、施設消毒を行うことが難しかった。

#### 【2022年度に向けて】

・子どものいる時間帯に、施設消毒を行えるよう、職員配置や担当を決めるなど、感染対策への取組を継続する。

### ③メンバー、保護者、学校、地域とのコミュニケーション

【収穫】・休会者への連絡を毎月行うことで、会うことの出来ないメンバーの様子を知ることが出来た。

・保護者からいただいた子どもの様子や、意見などを参考に丁寧に対応することで、ぷらいむ・たいむへの理解を得ることが出来た。

・学校、YMCAそれぞれでの子どもの様子を共有することにより、同じ方向性での支援につながった。

【課題】・町内会長宛にYMCAニュースの持参を行ったが、はっきりとした関係性を作るまでは至らなかった。

#### 【2022年度に向けて】

・メンバー、保護者、学校とのコミュニケーションを継続していく。

・町内会長とのコミュニケーションを取れるよう、少しずつであるが継続して、YMCAニュースを持参するなど、会う機会を作っていく。

中央センター所長：浅沼慧



## ぷらいむ・たいむ前潟校

前潟センターはぷらいむ・たいむ前潟校として土淵小学校、大新小学校の児童を対象に放課後児童クラブとして運営を行っています。2021年4月のスタート時は39名(内、1年生4名、2年生7名、3年生8名、4年生5名、5年生10名、6年生5名)でしたが、2022年3月時点で32名(内、1年生4名、2年生5名、3年生6名、4年生5名、5年生9名、6年生3名)と、7名減となりました。大新小学区の児童人数は横ばいであるものの、土淵小学区における児童人数が減ってきている事も原因のひとつと考えられます。

「全国YMCAユースチャレンジ2020」に「前潟ファーム拡張」として応募し、その助成金とリーダー、職員、関係者の協力のもと、ゴールデンウィークに前潟ファームの拡張作業を行いました。5年越しで当初の予定範囲まで畑の拡張作業が進み、前潟校の子どもたちと一緒にたくさんの野菜、果実を夏季に育てる事ができました。広がった畑と柔らかい土に目を輝かせて1年生～6年生は草取りや水撒きをがんばってくれました。みんなで育てた野菜や果物はコロナウイルス感染予防のため調理はできませんが、保護者へ無料配布し大変好評を得る事ができました。

特別イベントとしては、毎月の誕生会や手作りハロウィン、クリスマス各パーティー、長期休み中のカロム大会

やカードゲーム大会を開催しました。さらに今年度は、企画から準備、運営まで全て子どもたちで行った「5年生イベント」を開催しました。次年度は最高学年としてぷらいむ・たいむ前潟校を引っ張ってくれる5年生が、誰しもが楽しめるイベント作りに一生懸命取り組む姿が見られました。以前のように各企業、団体へ伺っての体験イベントはできなくなってしまいましたが、職員によるアイデアと準備により子どもたちが楽しく過ごすことができています。

川が目前に広がり、土と触れ合えるぷらいむ・たいむ前潟校は食物と一緒に人を育てる良い環境にあると思います。2022年度も畑のある放課後児童クラブとして、たくさんの人と関わり、たくさんの愛と笑顔を育んでいきます。

前潟センター所長：東森聡

## ぷらいむ・たいむ向中野校

向中野センターは、向中野小学校敷地内にあるセンターで児童クラブを中心とした活動を行っています。児童クラブは第1児童クラブと第2児童クラブを合わせた2単位の比較的大規模な児童クラブです。メンバーの数は、現在2022年3月時点で87名。全て向中野小学校の児童となっており、2021年度の定員数は100名です。

向中野センターは、もともと向中野の民家を借用し活動を行っていたのですが、地域の世帯数の増加により、現在の場所へ移転しました。その後、現在に至るまで毎年95名前後のメンバーを受け入れ続けてきました。2022年度も、向中野地域において人口は増加していく流れにあり、受け入れる子どもたちの数も前年度と同様、定員95名からのスタートとなる予定です。

現在までの向中野センター全体の課題は、児童クラブの活動内容の質を高め、子どもたちにとって、楽しく様々な人と触れ合いながら成長していける居場所、保護者の方々にとっては安心して子どもを預けられる安全な居場所づくりに努めることです。休会するメンバーや途中退会のメンバーを減らし、地域の方に、より貢献していけるようなセンターとなっていくことが重要です。

そのためには、2単位の児童クラブメンバーを受け入れるための人員の確保、環境面の改善を図ること。リー

ダーの質の向上を今後も図っていくことが必要です。

また、子どもたちにとって児童クラブを通して様々な体験活動の機会を提供していくという意味で、月曜日・金曜日の水泳教室、木曜日のサッカースクール、水曜日の英会話教室、野外活動、サンデースクールなど様々なYMCAの活動への参加の機会を積極的に提供していくことが大切だと考えています。

コロナウイルスが流行する以前は、チャリティーバザーや、チャリティーラン、国際協力街頭募金、地域の老人会の企画への参加の機会などがあり、児童クラブのメンバーにとって自分の地域の方々や、地域外に住んでいるの方々へ目を向ける切っ掛けとなりました。

今年度は、ぷらいむ・たいむ向中野校の卒業生の親御さんが、話を持ちかけて下さり、「野球教室」に児童クラブの子どもたちを参加させることができ、地域の野球部の高校生と児童クラブの子どもたちが野球を通して関わりを持つ良い機会とすることができました。今後もコロナ禍であっても、できることから地域への視点を広げて行けるような機会を大切にして、運営に努めて参ります。

向中野センター所長：尾形裕一郎

## ぷらいむ・たいむ盛南校

盛岡 YMCA 盛南センターは、本宮小学校、向中野小学校を対象とした放課後児童クラブ事業を行っており、2021年度は登録児童が1年生8名、2年生13名、3年生9名、4年生8名、5年生1名の計39名で開始した。約1年経った2022年3月段階で登録児童数は、1年生8名、2年生14名、3年生8名、4年生7名、5年生1名の計38名となった。この間、新規入会者が3名で昨年度の3名と変わらなかったが、退会者は4名と昨年度の13名よりも9名少なくなっている。このことから、保育の質の改善がなされていることが見受けられる。

改善がなされていることの具体的な理由として、伴走プログラムの本格的な実施を行うことができたことが挙げられる。日ごろからエピソードの記入が行なえており、また内容の共有も問題なく行えている。これにより、以前よりも普段の会話やセンターミーティングでの子どもたちの話題が増え、自発的に、子どもたちと向き合える環境が整えつつある。また、ぷらいむ便りも昨年度まではスケジュールリングが行なえておらず、不定期な発行となっていたが、今年度は、子どもたちの様子を伝えることをメインの目的として、毎月発行を行えている。

保育の質の向上だけでなく、今年度は環境面についても改善がされてきており、日ごろから各職員のデスクの

整理を行うよう努め、2月には、従来よりも作業効率をあげることを目的に棚や物の配置の変更など事務室内の環境整備を行った。また地域との関わりについては、今年度コロナの情勢があり、地域の行事が行われず、かわりを持つことが難しかったが、月に一度あいさつに伺い、関係を保つことはできている。

今現在新型コロナウイルスに関して、普段からチェックリストを基に、消毒換気の徹底ができており、またコロナ関連で対応する際も迅速に行えている。次年度も、コロナの情勢に合わせ、臨機応変に対応し子どもたちが安心して活動できる環境を整えていく。

次年度は、新入会員が、11名おり、49名での運営が予定となっている。今までよりも多くの子ども達が通う場となるので、今以上に子どもたち一人一人を大切にし、子どもらにとってかけがえのない場所となるよう努めていく。

盛南センターセンター長：中村渉

## サッカースクール

盛岡 YMCA のサッカー事業は、木曜コース、金曜コース、土曜コース、幼児コース、育成コースとなっており、2021年4月に全体で87名(内、木曜コース20名、金曜コース20名、土曜コース14名、幼児コース6名、育成コース27名)でスタートしました。2022年3月時点では全体で102名(内、木曜コース24名、金曜コース23名、土曜コース17名、幼児コース8名、育成コース30名)と、15名増となりました。

目標とする119名までは届きませんでしたが、盛岡 YMCA のサッカースクールがコロナ禍の中でもたくさんの人に知ってもらえる年となったと感じます。特に金曜コースに関して育成コース所属の子どもを含めると最大登録者数44名という大所帯となり、たくさん子どもたちでサッカーをすることができました。その反面、リーダーの参加者数があまり多くなく、子どもたち全員に関わるのが難しくなるなどの課題も浮き彫りになりました。

幼児コースは次年度エスカレーター式に土曜小学生コースに所属が期待されているため、もう一步の募集努力が必要だったと感じました。

サッカー大会は5月のファミリーサッカーがコロナウイルス感染拡大により7月に延期、7月の熱中症アラートにより9月に延期、9月の緊急事態

宣言に伴う延期と開催自体が危ぶまれましたが、10月24日に「ファミリーサッカーフェスティバル」と「チャンピオンズカップ」を同日開催としました。参加できる学年を分けたため、例年より盛り上がり欠けることが予想されましたが、参加人数に関係なく熱戦が繰り広げられ大成功となりました。

3月のスプリングサッカー大会はコロナウイルス感染拡大に伴い中止となりました。21年度はコロナウイルスと天候に脅かされ、開講日数自体も減りましたが、今までの方法とは違う形で成功を収める事ができたという事例も作りました。終息の見えない脅威の中で、試練を乗り越えどれだけの事ができ、どれだけ子どもたちの居場所を作ることができるのか、次年度以降大きな課題となってきます。

サッカースクール主任：東森聡



## 水泳教室



水泳教室に関わる会員、保護者、リーダーとのコミュニケーションを密に取りながら、質の良いプログラムを提供していくことをモットーに活動をしてきました。主な取り組みは大きく分けて以下の3つ。質の向上に終わりではなく、とても大切であることに気づかされました。今後もそこに重点を置きながら、新規会員増加や、新しいプログラムを進めていければと考えています。

### 1 伴走プログラムの取り組み

普段の活動で理由が分からず欠席をした方には、その日のうちに電話をかけ、休会中の方にも月半ばに電話をかけることにより保護者とコミュニケーションをとるよう心がけてきました。

また、年に3回、学期末に保護者へ電話をし、コミュニケーションをとることもできました。主な電話内容は、水泳教室での子どもの様子、泳力の上達具合、その他不安なこと、気になること等。こうした電話でのコミュニケーションは、次期の活動に活かせることがとても多く、リーダー間で共有し、楽しめていない子ども

がいれば、どうしたアクションが必要か、学期末の振り返りで協議し、対策を考え、一人一人の子どもたちにとってYMCAが居場所となるよう取り組むことができたのではないかと思います。

### 2 水泳指導力向上のための取り組み

スタッフトレーニングは4回行い、外部講師をお呼びし、スタッフ自身の泳力の向上、子どもの水泳指導におけるポイントについて学ぶことができました。リーダートレーニングは2回行い、初心者指導、安全管理はもちろんのこと、実技研修で学びの機会を設けることができました。

また、新しい取り組みとして、水泳指導の事例発表会を実施しました。これまで自分たちが行ってきたレッスンについて、発表し合い、様々な水泳指導法があることに気づき、今後の活動に活かせる内容となりました。こうした発表会も引き続き続けていけると良いと考えています。

### 3 会員増加のための取り組み

春休み、夏休み、冬休みに計3回、無料体験会を実施。春は16名、夏は13名、冬は9名の申込がありました。しかし、春は新型コロナウイルスの影響のため中止。夏と冬に関しても、体験会の実施はできたものの、通常活動自体が中止。そんな中、電話がけを行い、現段階で11名が入会しました。

次年度も会員を増やしていけるよう、無料体験会を実施し、YMCAのプログラムに多くの方が参加してもらえるよう取り組んでいきたいと考えています。

水泳教室 主任：武田悠

## 体育教室

今年度の体育教室は、5人からスタートをし、7月に1人、10月に1人、11月に2人が入会し、現在では9人のメンバーで活動しています。人数が増えていく中でも、子ども達が全力で楽しく活動できるよう日々のメニューを考え、子ども達がやりたいことも尊重することを意識しながら活動を行いました。

また、楽しみを生み出すためには、怪我無く活動が行えることが重要であるため、ボランティアリーダーと共に、各種目の補助の仕方を確認する時間も設けました。

そして、活動の幅を広げるために必要な備品を増やし、今年度はボールを使ったメニューを多く取り入れたり、輪の中でバランスをとり、感覚を養うメニューを行ったり、跳び箱の練習で足を置く位置や手の付く位置が確認しやすくできるようにしたりと、子どもたちが簡単に楽しく練習ができるように、環境を整えていきました。

また、学期毎に、参加メンバーについて振り返る場を設け、スタッフ、ボランティアリーダーで集い、子ども達1人1人の良いところ、気になるところについて話し合いました。次年度は月に一度の開催を目指し、子ども達にとってより良い活動としていけるようにしていきたいと考えています。



スタッフの技術面の研修については、他YMCAへの調査を行い、講師を依頼して実施を目指していましたが、双方の時間の調整が出来ず実施に至りませんでした。次年度は、講師を依頼し研修を行っていきけるよう動いていきます。子どもの運動で大切なキッズコーディネーション(バランス、リズム、変換、識別、定位、反応、連結)についても調査し、スタッフが学ぶ時間を設けます。

次年度、体育教室は第1教室、第2教室の2クラスになり、1クラス増えます。クラスが増えても安全に全力で楽しく運動が出来る環境作り大切に、活動を行っていきたいと考えています。また、ボランティアリーダーと一緒に活動する楽しさ、運動する楽しさ、仲間と一緒に活動する楽しさを感じてもらえるように努めていきます。

体育教室担当：藤原依音

## 定例野外（ちきゅうとあそぼう）



2021年度の野外活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、参加者数を制限し実施をしなくてはなりませんでしたが、しかし、その一方で、野外活動に関する問い合わせはとまることはなく、むしろ、このコロナの時代だからこそ、野外活動や、自然体験が求められているということも実感しました。どうしたら多くの子どもたちの自然体験の場、機会を提供することができるかが、今後の課題です。2021年度は、現会員の方へよりよい質の野外活動を提供することに重点を置き、活動をしてきました。取り組みは以下の通りです。今後はよりよい質を保ちながら、より多くの子どもたちに野外活動の体験ができるよう考えていく必要があります。

### ■伴走プログラムの取り組み

毎月、活動終了後に、参加した一人一人の子どもの様子を日誌として記録。グループを担当したリーダーが主に日誌を作成しました。それによって、スタッフが保護者へ電話がけをする

際に、日誌に記録されている詳しい具体的な活動中の様子を伝えることができましたし、リーダー自身の活動の振り返りにもなりました。また、次の活動で、異なるリーダーがグループの担当になった場合でも、日誌を共有することで活動への準備も以前より入念にできるようになりました。

しかし、より継続的に子どもたちの成長に寄り添っていけるように伴走していくためには、日誌よりもまずはリーダーが継続して参加できる環境を整えていかなければならないと感じました。2022年度からは、他の活動と同様に、野外活動もチームとしてスタッフ、リーダーが活動に取り組んでいけるよう体制を整えていきたいと考えています。

### ■リーダー研修の取り組み

リーダー自身の野外活動の体験が、新型コロナウイルス感染症の影響で減少しており、そうした中で、火付け、薪割り、安全理解、救急法の研修は最低限行わなければならない研修でした。予定通り、4つの研修を実施し、リーダーが野外活動に参加する上での最低限の技術、知識を身に着けることはできました。2022年度は、このコロナの時代でも野外経験をリーダー自身がさらに積んでいけるように、考えていかなければならないと考えています。

野外教育 主任：武田悠

## キャンプ (サマー・ウィンター)



2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、キャンプはすべて中止となりました。そのため、2021年度は、まずは、1本でも多くキャンプができることを目標とし、キャンプに参加する会員、保護者にも安心、安全のキャンプを提供できるよう準備を進めていきました。その結果、夏は2本、冬は1本、合計3本のキャンプを実施することができました。実施にあたって主に取り組んだ内容は以下の通りです。

2022年度も、安心、安全な楽しいキャンプを1本でも多く実施ができるよう準備を進めていきたいと考えています。

### ■安心、安全のキャンプ開催のための取り組み

キャンプ中の感染対策はもちろんのこと、キャンプ前の子どもたちの体調管理について等、他YMCAの取り組みを調査し、まずは安心、安全のキャンプの実施ができるようマスクの着用、それに伴う熱中症対策、食事時の感染対策等の準備を進めていきました。

そうした取り組みのおかげもあり、無

事にキャンプを実施することができました。また、ウィンターキャンプにおいては、毎年キャンプ中に、インフルエンザを発症する子がいましたが、そういった子もおらず、全員が元気にキャンプを過ごすことができました。施設消毒、定期的な喚起、湿度調整の効果だと考えられます。コロナが収まっても、インフルエンザ対策など、継続してできる取り組みもありますので、引き続き実施していければと考えております。

### ■リーダー研修の取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度は1度もキャンプの開催ができませんでした。それに伴い、リーダーのキャンプ経験値が減少。そうした中で、火付け、薪割り、安全理解、救急法、スキー技術の研修は最低限行わなければならないものでした。予定通り、5つの研修を実施し、リーダーがキャンプに参加する上での最低限の技術、知識を身に着けることはできました。また、キャンプ当日は、キャンプ経験の少ない現在在籍しているリーダーのサポートとして、OBOGのリーダーに声をかけ、キャンプに参加していただきました。現在在籍しているリーダーたちにとっても、とても大きな刺激になったようです。今後もリーダーOBOGにも声をかけ、共に活動をしていければと考えています。

野外教育 主任：武田悠



## ピンクシャツデー



2021年度のピンクシャツデーの活動は、内部・外部へのピンクシャツデーの発信としてチラシ・ポスターの配布、盛岡 YMCA 放課後児童クラブ4センター（ふらいむ・たいむ中央校、ふらいむ・たいむ前潟校、ふらいむ・たいむ向中野校、ふらいむ・たいむ盛南校）での「いじめ」について考えるプログラムの実施をしました。

2021年度の賛同・協力団体、企業は各校のピンクシャツデー担当者はもちろんのこと、盛岡 YMCA のフルタイム職員の紹介もあり22か所となり、前年度の団体、企業数19か所より増え、内部・外部共にピンクシャツデーの活動を広げられた年度となりました。

2021年度の各校のピンクシャツデーのプログラムでは、子どもたちが主体となり「いじめ」について向き合うことをテーマに活動を行いました。各校で「いじめ」について、子どもたちが考えやすい環境づくりとプログラムを計画し、実行しました。コロナ禍ということもあり、ピンクシャツデープログラムに参加できる子どもたち

の人数は前年度よりも少なかったものの、子どもたち自身が「いじめ」に対して深く考えられるプログラムとなりました。また、2021年度はピンクシャツデーの活動を岩手日報、岩手めんこいテレビから取材を受け、岩手県全体にピンクシャツデーというキャンペーンがあるということを多くの人が目にするきっかけを作ることが出来たと思います。

今回、放課後児童クラブふらいむ・たいむ前潟校が『こども六法』を参考として、2020年度、2021年度と作成、改定をし、作り上げてきた『まえがた六法』を小冊子として作成し、配布することで、多くの人や団体へ盛岡 YMCA がどのような活動をピンクシャツデーを通して行っているのか、見られる形となったのではないかと思います。また、盛岡 YMCA が毎月発行している『YMCA ニュース』では、ピンクシャツデー特集号として、魚住英昭理事長とピンクシャツデータスクチーム担当の大久保里美が「いじめ」についての対談を掲載し、より印象が強くなった年になりました。実際に保護者の方から「YMCA ニュース、読みましたよ。」というお言葉をいただき、少しずつではありますが、ピンクシャツデーという世界的キャンペーンを広げることができた2021年度の活動となりました。

ピンクシャツデータスクチーム  
リーダー：大久保里美

## 国際協力活動

2021年度は、個人募金150,000円、街頭募金200,000円、合計350,000円を目標に活動を行いました。今年度、2月に街頭募金活動を実施予定でしたが、盛岡の募金活動団体や他YMCAに11月に調査を行った上で、新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止と致しました。

その様な中、YMCA国際協力募金について、多くの方に知ってもらえるよう、地域の諸団体や店舗に向け、募金箱の設置とポスター掲示の依頼を行い、7つの団体、店舗(盛岡南ドライビングスクール、学校法人スコール高等学校の敷地内にあるレストラン「パタタ」、LiRiO、奥羽キリスト教センター、御菓子司山善、日産プリウス岩手販売(株)本社中古センター、天神町薬局)に、協力してもらうことが出来ました。昨年度の5つを超え協力を頂くことで少しでも多くの方に活動を知ってもらえる機会をつくる事が出来たと感じています。

内部の会員、関係のある方については、計画に則り募金活動の案内(計2報)を作成し、周知と協力の依頼を行いました。直接頂戴した方と、振り込みを合わせ、64名の方からの募金を頂きました。また、国際協力担当職員の理解を深めるため、日本YMCA同盟の協力の元、同盟の職員からパレスチナと東ティモールについて研修の機会を設けました。研修を基に、前述の案内をより分かり易く、より伝えられる

ように作成できたと思います。

多くの方々にご協力を頂き、今年度盛岡YMCAに寄せられた募金は、280,267円でした。目標金額である350,000円には、至りませんでした。街頭募金活動を中止とした中、昨年度募金額の210,620円を、大きく超えることができました。

今年度、調査する予定だった街頭募金活動の新しい場所での開催の調査は行いませんでした。理由は、街頭募金活動を今年も中止としたためです。現在、2年間街頭募金活動を実施できていません。国際協力活動をより多くの人に知ってもらうために、街頭募金活動は非常に大切な活動だと考えております。そのためにも、2022年度は街頭募金活動を行うための調査、準備を進め、実現を目指して行きたいと考えています。また、これまで培ってきた地域の諸団体、店舗との関係を継続し、さらに協力してくれる方を増やしていきたいと思っています。

国際協力活動タスクチーム

リーダー：藤原依音

## 環境美化

2021年度の【環境美化】の活動の柱は、

- ・タスクチームとして活動する
- ・5S運動の推進  
(前年度の流れを引き継ぐ)
- ・掲示物について

を軸に活動しました。

前年度まで、少数の有志での活動となっていたため、内容も限定的なものになっていたところでしたが、年度末には次年度から新たにチームとして合流するメンバーを交えて、話し合いの場を持たせたことで【盛岡 YMCA の環境美化】の動き出しをした年、と総括できると思います。

上記で上げた活動のほかに

- ・各事業所で出たゴミの取りまとめについての再調査
- ・各事業所での環境美化についての聞き取り

も、活動内容にしました。再調査では、市に問い合わせるなどして有識者の方に意見を頂戴したりもしました。現状、近隣のゴミ収集所にはゴミを出しておらず、週1回のペースで公用車で回収し、ごみ処理センターへ持ち込みを行っており、盛岡市のゴミ回収のルールに則っていますがもっと簡単に、かつ効率よくリサイクル出来る方法がないか、次年度へ向けて準備を進めている段階です。

一方で、優先順位をつけた結果、取り組めなかったこともあります。

- ・盛岡 YMCA スタディシリーズ「5S

運動を推進しよう③」の刊行

- ・問題（課題）を聞き取り→解決までの道のりコンテスト
- ・環境美化に関する研修等を年間に1回は行う

という内容です。どれも、手が及ばなかったものではありませんが、引き続き、次年度も活動の内容になっていくものだと考えています。中でも、「研修」に関しては、職員全体の意識づけのために、オンラインの実施を含め、YMCA内外問わず、有識者の方を探し、進めて行きたいと考えています。

今年度の大きな成果としては、昨年度・秋にも行った『断捨離』の実施が出来たことです。3月に各センターから排出された産業廃棄物を、業者に依頼し、回収してもらいました。向中野センターではセンターの開所以来使用していた事務用机（リサイクル品）をこの機会に処分し、新しく使いやすいものを新たにそろえることが出来ました。

昨年引き続き、必要なものと不要なものが整理された状態になり、だんだんと日々の業務のしやすさを実感出来てきている、といった言葉も聞けました。確実に【盛岡 YMCA の環境美化】がレベルアップしてきている証拠と言っても差し支えないと思います。

環境美化タスクチーム  
リーダー：菅原歩

## 伴走プログラム

今年度、伴走プログラムは、5月に植草学園大学発達教育学部発達支援教育学科教授で盛岡 YMCA の役員でもある、名古屋恒彦先生にこれまでの入力方法、運用方法についてのご助言を頂き、これまで使っていた、入力フォームのセキュリティ面の問題の解消や、複雑な選択項目等を簡略化するなどし、持続的な入力をするを目的に新入力フォームを作成することとなりました。

9月には、フルタイム職員を対象として、パイロットプログラムを行えるよう中村が中心となり、名古屋先生から引き続きご助言を頂きながら Google フォームを使用した入力フォームを作成しました。それに伴い、使用の方法をまとめた記入マニュアルを作成し、各センターフルタイム職員と共有したうえで、9月からパイロットプログラムを行うことができました。その後、10月からの本格始動に向け、タスクメンバーで実際に運用してみてどうだったかの振り返りを行い、その中で出た意見を基に、再度入力フォーム、記入マニュアルをブラッシュアップし、各センターフルタイム職員に共有したうえで、パート職員に向けて記入方法と、なぜ伴走プログラムを行うのかの意図を理解してもらうことを目的として、各センターのセンターミーティングで伴走プログラムの説明を行いました。そして、10月に各センター一斉に伴走プログラを開始

することができました。

その後は、タスクチームでのミーティングは行なえていませんが、チャイルドケア事業部会で話し合った際に出てきた課題として、入力頻度にセンター間で差があることが挙げられており、継続して入力ができるセンターもある一方で、入力時間の確保が難しいというセンターもありました。入力について、実際に入力している職員からは、以前の入力フォームよりも、選ぶ項目も簡略化され、入力しやすくなったという意見も聴こえる中で、上記の課題もでてきているのが、伴走プログラムの現状となっています。今後は、職員に聞き取り調査を行ったうえで、利点と課題を明確化させ、そのうえで次年度は、各事業で効果的に使用するためには、どの様なことが必要か、各担当と相談しつつ、事業ごとに最適化させた伴走プログラムできるように都度改善しながら、運用していくと考えています。

伴走プログラムタスクチーム

リーダー：中村渉

## クリスマス会

運動タスク・クリスマス会の取り組みは、9月の第1回目のミーティング以降、各センターに所属している担当スタッフで月に1~2回、ミーティングを重ね、内容を作っていました。

2020年度は、日本基督教団内丸教会の中原眞澄牧師からクリスマスの起源の話を10分弱の動画でお話いただきましたが、コロナ禍のため、1つの場所に集まるのではなく画面越しに子どもたちに伝えるという難しさが、振り返りの気づきとして挙げられていたこともあり、今年度は、実際に空気が届く同じ空間で、子どもたちにクリスマスを伝え感じてもらいたいと考え、自分たちの言葉でクリスマスを感じさせる【Zoom中継】という選択をしました。

今年度も盛岡YMCAの強みである学生ボランティアリーダーに参加してもらい、10名のリーダーが活躍してくれました。水泳、サッカー、体育、野外活動と様々な活動にも力を発揮している中、リーダー会長を中心に、SNSを駆使し、出し物や参加センターを決めていく様はとても頼もしいものでした。

当日は、中央・前潟・向中野・盛南、それぞれのセンターをZoomでつなぎ、物理的に離れていてもそれぞれが同じ時を過ごし、何か同じ取り組みをしようというコンセプトのもと、会話を楽しむことにしました。学生リーダーのうちの1人がサンタ役になり、Zoom

で中継するという内容でした。

当日までに本番さながらの事前練習を重ねなかったこともあり、当日は音声の不備や画像の不備が出てしまい、慌てる時間がでてしまったことは課題として、次年度以降につなげていきます。

また、担当スタッフから挙げられた振り返りとして、

- ・リーダーとのすり合わせが少なかった
- ・事前準備（練習）をきちんとしておくこと
- ・Zoom接続ができないときの代替案を用意していなかった

が、挙げられました。反対に、良かったこととして、

- ・子どもたちはこちらの予想以上にZoomに好反応だということがわかった
- ・他のセンターの様子を見れて子どもたちはうれしそうだった

ということが挙げられました。

次年度以降、会としてクリスマス会が行われるかは未定ですが、今年度の取り組みを活かし、どんな状況でも準備と対策はしっかり行うということを各センターの担当スタッフは身をもって知った、2021年度のクリスマス会の活動でした。

クリスマス会タスクチーム  
リーダー：菅原歩

## ポジティブネット募金

ポジティブネット募金タスクチームが行った今年度の大きな取り組みとしては、【特定非営利活動法人フードバンク岩手】が行う食糧支援に対する寄贈と、【認定NPO法人 accommon】との協働があげられます。

家庭で満足な食事を取ることが出来ない家庭も、平常時は学校給食で栄養補給が出来ますが、夏休みや冬休みなど学校の無い期間になると、満足な食事を取ることが難しくなるため、平常時に比べてより多くの食料が必要となります。年間を通して食糧支援を行っているフードバンクですが、今年度 YMCA では、より多くの食料支援が必要となる時期に合わせ、各活動に参加するメンバーや保護者へ、年間で3回声を掛け、食料の寄付をいただきました。

1 度目(夏休み)は全体で 59,98kg の寄付、2 度目(9月)は 18.56kg のお米、3 度目(冬休み)は 22.41kg の寄付をメンバーや保護者からいただき、ぷらいむ・たいむ盛岡中央校のメンバーと一緒に寄贈を行いました。

次に、認定NPO法人 accommon との協働です。インターナショナル・チャリティーランの益金を利用して、発達障がいを抱えている子どもや、通常の生活に困難を感じる子ども、そして、その保護者へのサポートプログラムを企画しました。実際は、コロナウイルス感染症のためリアルに会って行

うことは出来ませんでした。理事長の成田さんから YMCA ニュースの巻頭言をいただいたり、打合せを重ねていくことで、双方にとって良い関係性が生まれていきました。

このように、社会的に必要とされている様々な支援の中で、YMCA が単独で行えるものには限界があるため、以前から取り組みを行っている他団体と協働することにより、社会的に困難を感じる方々への支援を行っていくことが出来ます。

2022 年度も、今年度出来た繋がりを活かしながら、困難を感じる方々へつながるボランティア活動を行っていくほか、いただいた募金の使途を明文化し、より多くの寄付を募り、他団体とのつながりを強めながら、社会的な活動を行っていきたいと考えています。

ポジティブネット募金タスクチーム  
リーダー：浅沼慧



## 新規プロジェクト

2021年度は、2023年度供用予定である向中野児童センターの公募への応募、及び2024年度契約更新となる矢巾町の児童館の公募の可能性、盛岡市内での新規児童クラブ開所の可能性、以上の3点について行政への情報収集で得た情報を中心に検討を行った。

### ■ 向中野児童センターについて

電話や担当課訪問を行い、盛岡市担当課からの情報収集を行った。また、9月27日にYMCA本部にて担当課の職員から向中野児童センターについて説明を受けた。これは、担当課より説明に伺いたいとの話を受けて実施されたものであり、向中野小学校の児童を対象とした地域の児童クラブ全てに同様の説明を行っているとのことであった。盛南地区の調査の際、市の企画調整課に話しを伺ったところ、向中野地区はいまだに顕著に人口が増えており、今後も増加が見込まれるとのことであったため、応募も視野に考えられることとしていた。

しかし、向中野児童センターの指定管理を受けた際の指定管理料が実際の想定より低く、その中での運営が困難と考えられることや、開所時間や開所日の関係で人員の配置が困難になると想定されることから、向中野児童センター公募への応募は見合わせることにした。

### ■ 矢巾町児童館について

5月末、担当者へ電話での挨拶は行ったが、それ以降直接会う機会を設けることが出来ず、契約更新の際、運営団体が公募となるのかどうか確認できていない。2022年度4月に改めて担当者へ挨拶に伺うとともに、情報収集を行う必要があると考えている。

### ■ 市内新規児童クラブ開所の可能性について

年度当初より担当課を伺い情報収集の機会を設けた。放課後児童クラブにおける待機児童数の状況や新規開所優先度が高いと考える地域についての情報を得た上で、ふらいむ・たいむ盛岡中央校の2単位化運営を目指すこととした。9月末に担当課へ放課後児童クラブ開設計画書を提出し、1月に担当課より、盛岡中央校第2学童が委託契約されることが決定したとの話を頂いた。これをもって、盛岡中央校は盛岡市の委託を受け、4月から2単位運営となることが決定した。

2022年度は、矢巾町の児童館、市内における放課後児童クラブ新規開所、放課後等デイサービス開設、以上の可能性について検討すべく、調査を行っていく。

新規プロジェクトタスクチーム  
リーダー：小川嘉文

## 東日本大震災 被災地復興支援事業

### ■ 宮古教育相談会



震災10年を節目に今後の復興支援のあり方として、子どもの心を支える活動の重要性を認識し、盛岡YMCA常議員の名古屋恒彦さん(植草学園大学教授)を中心に学校教育にかかわる相談会を企画し開催することとなりました。2021年度は、6月26日、10月23日、3月5日と計3回開催し、北は久慈市、南は大船渡市まで沿岸各地の教職員の皆さんが参加しました。今日的な教育の話題や、現場での授業づくりなど自由に語り合う機会を提供することで、沿岸の復興に教育現場で尽力されている先生方を応援できればと考えています。

### ■ アマゾンフューチャーエンジニア 「プログラミング体験会 宮古教室」



宮古出身の2名の大学生ボランティア・リーダーが中心となって、企画されたプログラミング体験会が11月13日、14日の2日間、いーすとびわみやこで開催されました。当日は、10名の大学生リーダーが子どもらをサポート。参加した小中学生は、用意された教材アプリを使ってコードを打ち込み、文字の大きさや色を変えるなどの基礎を学びました。

### ■ 田老第一小学校 手編みのマフラープレゼント



2011年3月、震災直後に日本YMCA同盟を通して東京から派遣されたハイパーボランティアの一人、水野暢夫さんは、その後も宮古ボランティアセンターに集い、震災復興支援活動を続けてこられました。その活動の一つに、首都圏のボランティアが手編みの帽子を作成し、クリスマスの時期にサンタの衣装に身を包んだ水野さんが田老第一小学校の新入生にプレゼントする活動があります。盛岡YMCAでは、毎年、学生ボランティア・リーダーがトナカイに扮し、子どもたちと簡単なゲーム行うことでサンタ役の水野さんをサポートしてきました。昨年度は、コロナの関係で開催できませんでしたが、今年度は、手編みのマフラーを1,2年生にプレゼントするお手伝いことができました。

担当：濱塚有史



## 広報

2021年度の広報は、基本的に各事業部で計画を立てそれに則り、大きくずれることなく、広報を行うことが出来ていた。

夏にウエルネス(サッカー、水泳、体育)の無料体験会をそれぞれ企画し、それぞれで体験会のチラシを作成した。各事業部ともに計画通りに進めていたが、特に児童クラブで受け取る保護者からすると、時期がバラバラでそれぞれの体験会のチラシが届く形となった。他の案内もある中で、チラシの種類が多く、配布時期もバラバラになると宣伝効果が薄れるのではないかと考えから、冬のウエルネス無料体験会では、サッカー、水泳、体育の担当で協議し、体験会の日時を決め、チラシも1つのものに集約した。結果として、水泳教室以外のプログラムへの参加申し込みは無かったが、これに関しては、原因はチラシを1つにしたということではなく、チラシ配布のみで留まり、直接子ども、保護者に参加を呼び掛ける等の対応をしなかった事が大きかったのではないかと、担当者間で分析している。

いずれにせよ、計画通りに広報を行ったことで、その効果や、課題について、広報のタスクチームとして行えていないため、次年度は振り返りと分析を行った上で、まとめられるものはまとめられるよう整理していくことが必要と考える。また、そのためには、

各事業部との情報共有や協議を実施する機会を設けることを検討していきたい。

インスタグラムや SNS についても、取り扱いや最終確認を行う担当等をはっきりと出来ていなかったため、今後の課題と考える。

広報タスクチーム  
リーダー：小川嘉文

## 生涯学習

### ■ 習字教室

2021年度の習字教室は、①楽しみながら習字が上達する環境を目指す②書道の文化に触れる場を作るという2点を重点としました。

#### ①楽しみながら習字が上達する環境を目指す

YMCAの習字教室は、他団体が行っているような昇段を目指したのではなく、字に触れる機会を設ける。楽しみながら書に触れることを目的として開講していましたが、入会者に向けた案内の中で、目的を明確に伝えることが出来ず、2名の退会の要因となってしまいました。次年度は、入会者へ向けた案内に、昇段等段位設定がないことと楽しみながら書に触れることを目的としている旨を明示し、理解してもらった状態で入会していただくようにしていきたいと考えています。

#### ②書道の文化に触れる場を作る

2021年度は、夏休みと冬休みに、ふらいむ・たいむ盛岡中央校のメンバーを対象として、書道の文化に触れる機会を設けたいと考えていましたが、講師との連絡が上手くいかず、そのような機会を設けることが出来ませんでした。習字教室の参加者を増やすことにもつながるため、現実的にどのようなやり方が可能か、どのような文化に触れるのかなど、早めにやり方を講師と打合せ、そのような機会を提供できるようにしていきたいと考えています。

担当：浅沼慧

### ■ 英会話教室

英会話教室は、向中野公民館ホールを借用し、ふらいむ・たいむ向中野校、ふらいむ・たいむ盛南校のメンバーを「こかげ英会話」さんご協力の下、毎週金曜日に開校しています。2022年度からは、毎週水曜日のクラスを展開します。クラスは、1～3年生と4～6年生のクラスがあります。これまで、一般のメンバー受け入れ、無料体験会、ハロウィンイベントを行い、都度2～3名の入会がありました。

コロナ禍では、盛南センター2階の一室を利用したオンライン講義で対応するなどの工夫を行いました。

課題は、入会をしたメンバーへのケアが行き届く環境をつくり、途中退会することなく継続した参加が見込める状況にすることです。そのためには、ネイティブの講師とメンバーのコミュニケーションを円滑にすることが大切です。今年度から、「シンティア・ラザロ」さんに講師が変わります。講師の方とメンバーとの関係づくりを優先し、英会話教室を安定させていくことが必要です。

また、YMCAらしい英会話教室として、英語の学習に重点を置くのではなく、参加するメンバーが、楽しみながら英会話に触れること、異文化に触れ国際理解の切っ掛けとなれる場所とする事を大切にしていきたいと考えています。

担当：尾形裕一郎

## サンデースクール

サンデースクールは、「こんな企画を子ども達とやりたい！」という思いを軸に、大学生リーダーが主体となって活動しています。工作や料理、スポーツなど企画の種類は多岐にわたります。企画は多種多様ですが、「誰もが楽しめるモノ」というのを日頃から大切に活動しています。

### ■ 2021 年度の活動の内容



2021 年度の活動は、当初年 7 回の予定でしたが新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、4 回のみの実施となりました。5 月の「絵はがきづくり」、6 月の「キンボール」、10 月の「YMCA 運動会」、11 月の「クリスマスオーナメントづくり」で仁王地区活動センターや仙北地区活動センターをお借りして実施しました。

絵はがきづくりやクリスマスオーナメントづくりといった工作系のプログラムでは、子ども達一人一人の個性が作品となって表われていました。キンボールや運動会では、年齢や性別、

運動能力に関わらず誰もが楽しく体を動かせるような内容にすることができました。

今後のサンデースクールでは、リーダーと子ども達とのグループ活動を充実させ、限られた時間内でリーダーや子ども同士での輪を広げていけるように努めていきたいです。

### ■ 2022 年度の展望

2022 年度からは年間 6 回の実施となります。完成度のクオリティが高い工作や、しっかり体を動かしつつも誰もが楽しめるスポーツはもちろん、2022 年度からは「イベント系」の企画にも力を入れています。よりサンデースクールの活動の幅を広げたいという思いもあるのですが、コロナ渦以前には、当たり前体験することのできていたイベント行事というのが、今ではかなり限られてしまったという背景があります。YMCA でそのような体験ができたという思いから「ヒーローショー」や「ハロウィンパーティー」などといった企画を考えました。もちろん感染対策には十分配慮した上で実施します。

2022 年度もリーダーの「やりたい！」という気持ちを大切に、より多くの子ども達に楽しんでもらえるようリーダー会全体で取り組んでいきます。

サンデースクール：ディレクター  
小河原悠加（岩手大学 4 年）

## ■ 事業報告 3月 31日現在

維持会費、寄付、プログラム募集実績

	A 2021年予算	B 2020年実績	C 2021年実績	対予算	対前年度
<b>【本部】</b>					
維持会費	550,000	559,000	426,000	△124,000	△133,000
寄付金	230,000	485,400	54,650	△175,350	△430,750
	A 2021年予算	B 2020年実績	C 2021年実績	対予算	対前年度

### 【特別活動募集実績】

ファミリーサッカー大会	50	0	32	△18	32
チャンピオンズカップ	70	88	36	△34	△52
スプリングサッカー大会	50	50	0	△50	△50
イベント計	170	138	68	△102	△70

### 【野外活動募集実績】

〈定例野外活動〉

4月活動	30	0	30	0	30
5月活動	30	0	34	4	34
6月活動	30	30	31	1	1
7月活動	0	33	0	0	△33
8月活動	30	29	0	△30	△29
9月活動	30	30	0	△30	△30
10月活動	30	33	32	2	△1
11月活動	30	23	31	1	8
12月活動	0	0	0	0	0
1月活動	30	30	0	△30	△30
2月活動	30	26	0	△30	△26
3月活動	30	23	0	△30	△23
定例野外計	300	257	158	△142	△99

〈季節キャンプ〉

森のキャンプ	30	0	30	0	30
島のキャンプ	0	0	30	30	30
星のキャンプ	30	0	0	△30	0
ジュニアスキーキャンプ	30	0	37	7	37
ダイナミックスキーキャンプ	30	0	0	△30	0
季節キャンプ計	120	0	97	△23	97

### 【定例プログラム募集実績】

	A 2021年予算	B 2020年実績	C 2021年実績	対予算	対前年度
児童クラブ	196	203	202	6	△1
サッカー	116	115	112	△4	△3
水泳	90	77	85	△5	8
体育	10	8	9	△1	1
生涯学習	12	14	10	△4	5

## ■ 2021年度 盛岡YMCA活動報告(2021年4月1日～)

### A.理事会・常議員会・会員総会

月日	行事名	場所	出席	主な議題
4月27日	常議員会・理事会	いわて情報交流センターアイーナ	13	事業会計報告 会員総会について
5月22日	会員総会	いわて情報交流センターアイーナ	13	事業会計報告 2021年度予算等
8月27日	常議員会・理事会	書面		
11月5日	常議員会・理事会	いわて情報交流センターアイーナ	13	2022年度事業方針について
12月3日	常議員会・理事会	いわて情報交流センターアイーナ	12	定款会則内規について 会則検討委員会の設置について
1月21日	常議員会・理事会	YMCA本部事務局	10	定款変更、内規について
2月18日	常議員会・理事会	YMCA本部事務局	13	21年度決算見込、22年度予算、役員改選について
3月20日	YMCA大会	Zoom	57	基調講演 分団協議

### B.職員研修

月日	行事名	場所	出席	内容
5月17日	安全運転講習	盛岡南ドライブインスクール	9	運転実地 救急講習
6月28日	児童クラブ職員向け内部研修①	アイーナ	12	児童クラブについて、危険予測について
6月29日	児童クラブ職員向け内部研修①	アイーナ	4	児童クラブについて、危険予測について
7月19日～23日	全国YMCA専門職管理者研修	ZOOM	1	YMCA理解 キリスト教理解 人材管理と育成他
9月4日	COVID-19感染予防対策講義	中央センター	7	コロナウイルス感染対策
9月11日	COVID-19感染予防対策講義	中央センター	8	コロナウイルス感染対策
10月26日	児童クラブ職員向け内部研修②	向中野センター	8	スタンダードについて、怪我時の初期対応について
10月27日	児童クラブ職員向け内部研修②	中央センター	10	スタンダードについて、怪我時の初期対応について
9月30日～11月27日	ステップⅡ研修	YMCA東山荘他	1	
11月1日～2日	コーチング研修	ZOOM	2	パラダイムシフト
1月19日	ファシリテーション講座	ZOOM	2	
1月25日～26日	東日本地区YMCAスタッフ研修会	ZOOM	1	YMCA理解 キリスト教理解
1月29日	やさしい日本語セミナー	ZOOM	2	やさしい日本語
1月31日	アイスブレイク活用術	ZOOM	2	
2月19日	児童クラブ職員向け内部研修③	ZOOM	9	発達障がいのある子どもについて
2月25日	児童クラブ職員向け内部研修③	ZOOM	9	発達障がいのある子どもについて

### C.特別活動

月日	行事名	場所	参加	内容
7月31日	夏の水泳無料体験会	ふれあいランド岩手	13	水泳無料体験会
7月31日	夏の体育教室無料体験会	仁王地区活動センター	4	体育教室無料体験会
1月8日	冬の水泳無料体験会A	盛岡市立総合プール	7	水泳教室無料体験会
1月9日	冬の水泳無料体験会B	盛岡市立総合プール	0	水泳教室無料体験会
1月8日	冬の体育無料体験会	仁王地区活動センター	0	体育教室無料体験会
3月26日	第一回盛岡YMCA水泳大会	Zoom	23	水泳会員との交流会
3月27日	わくわく交流会	Zoom	17	野外活動クラブ会員との交流会
3月27日	木曜コースお楽しみ会	Zoom	4	サッカースクール会員との交流会
3月27日	金曜サッカーお楽しみ会	Zoom	3	サッカースクール会員との交流会
3月27日	土曜サッカーお楽しみ会	Zoom	11	サッカースクール会員との交流会

## D.リーダートレーニング

月日	講師	場所	出席	内容
6月19日	日本赤十字社	日本赤十字社	27	救急法
6月20日	武田悠	外山森林公園	33	薪割り火付けトレーニング
6月23日	濱塚有史	ZOOM	25	YMCA理解
7月4日	小川嘉文	中央センター	16	人間関係トレーニング①
7月5日	武田悠	ZOOM	34	安全理解
7月11日	小川嘉文	中央センター	12	人間関係トレーニング②
11月17日	山根一毅	ZOOM	19	世界のユースとYMCA
11月21日	宮澤秋彦・齊藤七彩	仁王地区活動センター	18	プログラム理解
11月25日	中原真澄	ZOOM	18	キリスト教理解
12月4日	名古屋恒彦	zoom	29	対象理解
12月6日	武田悠	中央センター	29	スキーキャンプ理解、安全理解、
12月18日	武田悠	安比高原スキー場	25	日帰りスキートレーニング
12月19日	武田悠	安比高原スキー場	23	日帰りスキートレーニング

## E.定例野外活動

ちきゅうと、あそぼう

月日	タイトル	場所	参加者	リーダー	スタッフ
4月25日	盛岡市内を大冒険♪	岩手公園周辺	30	12	2
5月30日	春の魚釣り大会!!	行徳養魚場	34	14	2
6月27日	レッツ青空クッキング♪	外山森林公園	31	12	2
8月29日	川遊びへ行こう♪	中津川	中止	中止	中止
9月25日～26日	1泊キャンプお泊り会♪	国立岩手山青少年交流の家	中止	中止	中止
10月31日	森のハロウィンパーティーをしよう♪	外山森林公園	32	14	2
11月28日	電車でGO！お馬さんに会いに行こう♪	馬っこパークいわて	31	13	2
1月30日	オリジナル凧作り&思いっきり雪遊び♪	中央公園	中止	中止	中止
2月27日	森の中で思いっきり雪遊び♪	岩手県民の森	中止	中止	中止
3月25日～26日	ザ・キャンプ	国立岩手山青少年交流の家	中止	中止	中止

## F.サッカー大会

月日	タイトル	場所	参加者	リーダー	スタッフ
10月24日	ファミリーサッカーフェスティバル	岩手県立大学	32	12	3
10月24日	チャンピオンズカップ	岩手県立大学	36	12	3
3月13日	スプリングサッカー大会	渋民総合体育館	中止	中止	中止

## G.サンデースクール

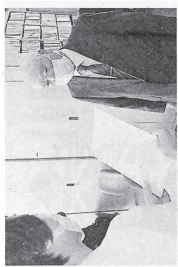
月日	タイトル	場所	参加者	リーダー	スタッフ
4月4日	ステンドグラス風しおりを作ろう！	—	—	—	—
5月9日	絵はがきを作ろう！	仁王地区活動センター	11	10	1
6月13日	キンボールで遊ぼう！	仁王地区活動センター	15	12	1
10月17日	YMCA運動会	仁王地区活動センター	11	8	1
11月14日	クリスマスオーナメントづくり	仁王地区活動センター	16	12	1

## H.宮古震災復興支援活動

月日	タイトル	場所	参加者	講師	スタッフ
6月26日	宮古教育相談会	宮古市総合体育館大会議室	6	1	名古屋恒彦理事が講師
10月23日	宮古教育相談会	宮古市総合体育館大会議室	5	1	名古屋恒彦理事が講師
11月13日、14日	宮古プログラミング教室	いーすとびあみやこ	8	9	名古屋恒彦理事が講師
12月17日	手編みのマフラープレゼント	田老第一小学校	34		社会人ボランティア1名リーダー2名
3月5日	宮古教育相談会	宮古市総合体育館大会議室	3	1	名古屋恒彦理事が講師

岩手日報 2021年9月1日(水)

岩手日報 2021年11月12日(金)



高橋久代委員長から認定証を受けける深沢秀男副理事長(右)  
**青少年育成に尽力  
 認定NPO法人に  
 盛岡YMCA**

**盛岡** 青少年の健全育成活動に取り組み、盛岡市中央通の盛岡YMCA(魚住英昭理事長)は、県から認定NPO法人の認定を受けた。同法人は県内で22となった。

交付式は8月30日に県庁で行われ、深沢秀男副理事長らが出席。県若者女性協働推進室の高橋久代委員長が認定証を手渡し「認定を飛躍の機会とし、より多くの支援を得てさらに活躍してほしい」とあいさつした。

盛岡YMCAは1983年に発足し、学童保育のほか、サッカーや水泳などの教室、野外活動などを展開。長年、東日本大震災の復興支援も行ってきた。深沢副理事長は「岩手のもとで子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の美現を目指すが使命。これからも地域と成長していきたい」と力を込めた。

2021年(令和3年)11月12日(金曜日) 社説(22)

東日本大震災時「何もできなかった」

# IT通じ古里に恩返し

宮古出身の村上さん(僕)、長沢さん(僕)

「IT通じ古里に恩返し」というのが、岩手県宮古市の村上さん(22)と長沢さん(21)の目標だ。彼らは、東日本大震災の被災地である宮古市にIT技術を提供し、被災者の生活を支援しようとしている。村上さんは「IT技術は、被災地の復興に大きな力を発揮できる」と信じている。長沢さんは「被災地の人々とつながり、互いに支え合える社会を作りたい」と話す。二人は、地元でIT技術の勉強会を立ち上げ、被災地に派遣されるメンバーを育てようとしている。また、被災地の企業と提携し、IT技術を活用したビジネスを創出しようとしている。村上さんと長沢さんの活動は、宮古市だけでなく、東北各地にも広がっている。彼らの活動は、被災地の復興に大きな力を発揮している。彼らの活動は、被災地の復興に大きな力を発揮している。彼らの活動は、被災地の復興に大きな力を発揮している。

## あすから小中生に体験会

「あすから小中生に体験会」というのは、宮古市の企業と連携して、小学生や中学生にIT技術の体験会を開催する取り組みだ。体験会は、IT技術の基礎知識やスキルを学ぶだけでなく、被災地の現状や復興の取り組みについても学ぶことができる。体験会は、宮古市の企業と連携して、小学生や中学生にIT技術の体験会を開催する取り組みだ。体験会は、IT技術の基礎知識やスキルを学ぶだけでなく、被災地の現状や復興の取り組みについても学ぶことができる。体験会は、宮古市の企業と連携して、小学生や中学生にIT技術の体験会を開催する取り組みだ。



みつかる。つながる。よくなっていく。

認定NPO法人 盛岡YMCA

〒020-0021 盛岡市中央通3丁目7-18 ラ・ベルヴィ中央201 Tel 019-623-1575 Fax 019-623-1579